ＪＡ京都中央　２０２３年４月１８日　No.648

営農ウィークリーNEWS

切花「カラー」出荷最盛期を迎える

４月１２日、洛南支店管内の切り花「カラー」が出荷の最盛期を迎えています。

「カラー」は、サトイモ科の多年草で、ブーケやアレンジメントに活用され、贈り物として人気があります。

花に見える部分は仏炎苞（ぶつえんほう）と言われる萼(がく)が変化したもので、その色は、赤、オレンジ、黄、ピンク、白、紫、緑、茶、黒などあります。

洛南支店花卉部で唯一、栽培を手掛ける月本誠さんは、「カラー」の湿地を好む特性を生かして、湧水が豊富で環境に適した城陽市に１２アールのハウスで栽培されています。

近年の気象変動により栽培管理の中でもハウス内温度管理には細心の注意を行っておられます。今後、収穫作業と出荷は、５月上旬まで続きます。

ーＴＡＣ information－　タケノコ肥料の集中配布

西南部経済センターでは、４月８日、地域特産物の「タケノコ」栽培用肥料を乙訓ライスセンターで集中引取配布を行いました。

「タケノコ」は、収穫後、直ちに肥料を散布することで、次年度の栽培が始まるとされ、早くも来春の収穫用に向けての栽培準備となります。今後も生産コスト低減を目的に定期的に各種特産物の栽培用肥料の集中配布を計画しています。

作成者：営農販売課　新谷雅敏

大原野事業センターの水稲苗の播種作業が始まりました

４月８日、大原野事業センターでは、２０２３年作付用、水稲苗の播種作業が始まりました。

早生品種「コシヒカリ」から播種作業が開始され、植付時期に合わせて中生、晩生品種など５月上旬まで播種作業が続きます。

近年の温暖化による品質低下を防止する対策として播種期を遅らせ、登熟期に高温が回避できるように工夫しています。大原野事業センターでは、管内以外の地域からも水稲苗の需要が拡大しており、２０２３年度は、４万５千枚の苗箱を供給する予定です。

耐高温性品種「にこまる」種子の配布

４月１０日、経済部営農販売課は、耐高温性品種「にこまる」の２０２３年産作付用種子もみの配布準備を行いました。「にこまる」は、耐高温性と良食味米品種として近年、注目されている品種です。

２０１０年産米が記録的な猛暑により、品質が低下したことから、耐高温性品種である「にこまる」の試験栽培を２０１１年産米より継続して行っています。２０２３年産の作付は、４.６ヘクタールを予定しています。